

令和5年度部局アクションプラン

■記載内容

3.「全学的に重視する指標」の数値目標

■目次

- ・ 概要資料(P.2-4)
- ・ 令和5年度部局アクションプラン(数値目標)検証シート

頁 数	部 局 名	頁 数	部 局 名
P.5	人文学研究科・文学部・外国語学部	P.17	情報科学研究科
P.6	人間科学研究科・人間科学部	P.18	生命機能研究科
P.7	法学研究科・法学部	P.19	高等司法研究科
P.8	経済学研究科・経済学部	P.20	連合小児発達学研究科
P.9	理学研究科・理学部	P.21	微生物病研究所
P.10	医学系研究科・医学部	P.22	産業科学研究所
P.11	医学系研究科・医学部(保健学)	P.23	蛋白質研究所
P.12	歯学研究科・歯学部	P.24	社会経済研究所
P.13	薬学研究科・薬学部	P.25	接合科学研究所
P.14	工学研究科・工学部	P.26	レーザー科学研究所
P.15	基礎工学研究科・基礎工学部	P.27	核物理研究センター
P.16	国際公共政策研究科	P.28	サイバーメディアセンター

令和5年度部局アクションプラン(数値目標)の検証について

1. 制度について

第4期中期目標期間において、国立大学法人は、適正なガバナンスを確保するとともに、自律的な経営力を発揮することで、我が国全体の質の高い高等教育の維持・発展に寄与するという社会的役割を果たしていくことがさらに求められている。

また、将来ビジョンに基づく持続的かつ発展的な大学経営には、評価指標の設定、各施策の進捗管理、評価、資源配分という PDCA サイクルを実現することが不可欠である。

以上のような背景を踏まえ、第4期中期目標期間では、「OU マスタープラン2027」と「OU アクションプラン」の下、部局が定めた「年度計画・成果指標」に基づく自己点検・評価の結果を大学として確認・検証することで、大学の方向性に沿った取組を確認するとともに、部局がさらに強み・特色を発揮するための支援を行うこととし、これにより部局における PDCA サイクルを好循環させ、大学全体の教育研究活動等のさらなる発展に繋げることとしている。

部局アクションプランの内容

- ・ 部局の強み・特色を活かすための基本理念
- ・ OU マスタープラン 2027・OU アクションプランの達成に資する年度計画
- ・ 「全学的に重視する指標」の数値目標

対象指標

- ・ 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合
- ・ 常勤教員の論文数
- ・ 競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額
- ・ 共同研究・受託研究の受入金額
- ・ 外国人留学生数
- ・ 日本人海外派遣学生数

検証方法

指標の達成状況及び各部局で作成した取組状況等に対して、各指標の評定基準等に基づき、質保証総括オフィス及び各指標の担当理事にて検証を行った。

2. 「全学的に重視する指標」の数値目標に係る検証結果について

(1) 全体の検証結果

項目	指標	対象 部局数	評価				
			SS	S	A	B	C
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	12	1	5	6	0	0
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	16	3	5	4	4	0
研究	常勤教員の論文数	24	0	6	9	9	0
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	24	1	1	14	8	0
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	24	1	2	12	9	0
グローバル化	外国人留学生数	15	2	2	9	2	0
	日本人海外派遣学生数	15	4	7	3	1	0

<評価区分>

SS:目標の達成状況が非常に優れている S:目標の達成状況が優れている

A:目標の達成状況が良好である B:目標の達成状況が不十分である

C:目標の達成状況が不十分で、重大な改善事項がある

(2) 個別の検証結果(詳細は、別紙「令和5年度部局アクションプラン(数値目標)検証シート」のとおり)

○特筆すべき事項(SS評価)

区分名	指標名	部局名	評価理由
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合	医学部	目標値を非常に大きく上回っている。
		法学研究科	全学的にも例年高い水準を維持していることに加え、目標値をはるかに上回っていることは、非常に高く評価できる。
		国際公共政策研究科	全学的に例年トップの水準を維持しており、さらに目標値を上回っていることは、非常に高く評価できる。
		情報科学研究科	目標値を大きく上回っており、比較的高い水準に達してきている。
研究	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	社会経済研究所	目標値を大きく上回るとともに、前年度からの大幅な増加が見られ、非常に高く評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	工学研究科	新たな共同研究講座や協働研究所の設置をはじめ、設置後の継続的な活動サポート等、産学連携の取組を積極的に実施し、目標値を大きく上回っている。また、全学的に見ても高額な受入金額であり、高く評価できる。

グローバル化	外国人留学生数	理学研究科・理学部	国際科学特別入試やサマープログラムなどの特別なプログラムの提供や私費留学生への RA 経費の補助などにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、非常に高く評価できる。
		情報科学研究科	海外の大学への積極的な広報活動等を充実した結果、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、非常に高く評価できる。
	日本人海外派遣学生数	法学研究科・法学部	学生に留学を考える機会を増やすために、国際交流室による留学支援に関する研修や留学報告会を実施したことで、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、非常に高く評価できる。
		理学研究科・理学部	大学院プログラムの海外研修の推奨、海外留学奨学金の支給などにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、非常に高く評価できる。
		歯学研究科・歯学部	学部学生海外派遣プログラムを再開し、前年度から大きく増加して目標値を大きく上回ったことは高く評価できる。
		工学研究科・工学部	国際交流推進センターなどが進める学部向け海外研修プログラムや大学院向け海外研修プログラム、日本人学生の英語力強化のための取組などにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からも大きく増加しており、非常に高く評価できる。

3. 総括

大学として重視する事項への達成度を定量的な面から評価し、各組織の取組が大学の方向性に沿っているかを確認することができた。

次年度についても、引き続き本取組を実施し、大学全体の教育研究活動等のさらなる発展に繋げることとしている。

なお、検証結果については、ステークホルダーからの本学活動への理解の深化及び教育研究情報の公表の促進等の観点から、後日、本学ホームページへ概要資料とともに掲載を予定している。

部局名:人文学研究科・文学部・外国語学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(文学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加も見られ、新たに検定試験料補助を開始したことなど高く評価できる。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(外国語学部)	S	目標の達成状況が優れている 全学的にも例年高い水準を維持しており、さらに目標値を上回っていることは、高く評価できる。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	A	目標の達成状況が良好である 目標値をほぼ達成しており、今後の取組の成果にも期待する。
研究	常勤教員の論文数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回る実績を上げており、高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である ・学内配分による受託研究の実施等、産学連携への貢献は評価できるが、実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である 目標値を5%程度とわずかに下回ってはいるものの、全学的にも高い水準を維持している点は評価でき、特別入試や特待留学生制度、エラスムス・ムンドゥスのプログラム提供などを継続して行っており、今後の向上に期待する。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である 国際連携室による語学力向上のための援助、奨学金および独自財源による経費の一部支援、奨学金への応募推奨などにより、目標値を大きく上回っており、評価できる。

部局名:人間科学研究科・人間科学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、学生の英語力向上に資する取組を継続して行っており、それを学生に周知することなど、今後の向上に期待する
研究	常勤教員の論文数	A	目標の達成状況が良好である
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 獲得金額は目標値をほぼ達成しており、また、件数についても1人当たり1件以上の獲得を達成するなど、相応の獲得実績を上げていることが評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である ・情報科学研究科との連携や人文社会科学系部局で初めての共同研究講座を設置する等、産学連携の取組は高く評価できるが、実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回り、前年度からも減少している。留学生が安心して本学で学ぶための環境整備を継続し、積極的に広報することで、留学生の増加につながることを期待する。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である

部局名:法学研究科・法学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	目標の達成状況が良好である
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	SS	目標の達成状況が非常に優れている 全学的にも例年高い水準を維持していることに加え、目標値をはるかに上回っていることは、非常に高く評価できる。
研究	常勤教員の論文数	A	目標の達成状況が良好である
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である ・所属教員への働きかけ等、取組は評価できるが、実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である 協定校への積極的な周知により、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、評価できる。
	日本人海外派遣件数	SS	目標の達成状況が非常に優れている 学生に留学を考える機会を増やすために、国際交流室による留学支援に関する研修や留学報告会を実施したことで、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、非常に高く評価できる。

部局名:経済学研究科・経済学部

区分	指標	評定	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回っている。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 全学的にも例年高い水準を維持しており、さらに目標値を上回っていることは、高く評価できる。
研究	常勤教員の論文数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、R6 年度から論文発表に伴い研究費を追加配分するインセンティブ制度を導入しており、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 獲得件数・金額ともに目標値を下回っているが、競争的資金獲得に対するインセンティブ制度を導入しており、今後の向上に期待する。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である 目標値をほぼ達成し、留学案内などの広報活動や交流会などの取組は評価できる。
	日本人海外派遣件数	A	目標の達成状況が良好である

部局名:理学研究科・理学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>目標値には達していないが、研究科独自予算での受験料の一部補助や大学院入試での外部英語試験のスコア使用などの取組を行い、学生の英語能力に資する取組を継続して行い、令和3年度から着実に増加していることは評価できる。</p>
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	B	<p>目標の達成状況が不十分である</p> <p>目標値を下回っているが、学生の英語力向上に資する取組を継続して行っており、今後の向上に期待する。</p>
研究	常勤教員の論文数	A	<p>目標の達成状況が良好である</p>
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>獲得金額は目標値をほぼ達成しており、また、件数についても、幅広く研究力分析や競争的資金の情報収集を行い競争的資金への積極的な申請を促したことで、相応の獲得実績を上げていることが評価できる。</p>
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	B	<p>目標の達成状況が不十分である</p> <p>・研究交流セミナーの実施による企業・自治体との交流等、産学連携の取組は評価できるが、実績値に基づき判断した。</p> <p>・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。</p>
グローバル化	外国人留学生数	SS	<p>目標の達成状況が非常に優れている</p> <p>国際科学特別入試やサマープログラムなどの特別なプログラムの提供や私費留学生へのRA経費の補助などにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、非常に高く評価できる。</p>
	日本人海外派遣件数	SS	<p>目標の達成状況が非常に優れている</p> <p>大学院プログラムの海外研修の推奨、海外留学奨学金の支給などにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、非常に高く評価できる。</p>

部局名:医学系研究科・医学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	SS	目標の達成状況が非常に優れている 目標値を非常に大きく上回っている。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回っている。
研究	常勤教員の論文数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、Impact Factor が 10 以上の論文数は上昇している。論文数減少の原因について調査し、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	S	目標の達成状況が優れている 獲得金額は目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である 目標値は下回っているものの、前年度実績を上回るとともに、全学的に見て高い水準を維持しており、評価できる。
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を達成し、前年度からの増加も見られ、高く評価できる。

部局名:医学系研究科・医学部(保健学)

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	目標の達成状況が良好である
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、学生の英語力向上に資する取組を継続して行っており、今後の向上に期待する。
研究	常勤教員の論文数	A	目標の達成状況が良好である 目標値をわずかに下回っているが、保健学専攻の集学的研究機構である IHDi 機構を令和 5 年から稼働するなど、積極的な取組を継続して行っており、評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 獲得件数・金額ともに目標値を下回っているものの、獲得間接経費の額に応じた予算配分をしている点は評価でき、今後の成果に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である ・企業や自治体との連携強化等、産学連携の取組は評価できるが、実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を達成し、前年度からの増加も見られ、高く評価できる。

部局名:歯学研究科・歯学部

区分	指標	評定	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	目標の達成状況が良好である
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回っている。
研究	常勤教員の論文数	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているものの、ほぼ達成していると認められる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 獲得件数・金額ともに目標値をほぼ達成しており、競争的資金の獲得を教員評価に反映していることは評価でき、今後の成果にも期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である ・イノバティブ・デンティストリー推進センターによる取組等、産学連携の取組は評価できるが、実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	A	目標の達成状況が良好である
	日本人海外派遣件数	SS	目標の達成状況が非常に優れている 学部学生海外派遣プログラムを再開し、前年度から大きく増加して目標値を大きく上回ったことは高く評価できる。

部局名:薬学研究科・薬学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回っている。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 全学的にも例年高い水準を維持しており、さらに目標値を上回っていることは、高く評価できる。
研究	常勤教員の論文数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、インパクトに優れた研究発表により、プレスリリースや受賞があり、質の高い研究を志向している点は評価でき、今後の論文の質と量の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 獲得金額は目標値を下回っているものの、獲得件数は目標値を上回っている。獲得金額増加に向けた問題点や課題の洗い出しと分析等に基づく取組による今後の成果に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である ・大型予算研究の臨床への移行等により目標額は達成できなかった点を踏まえて、次の大型予算の獲得に向けて取組を進めていることは評価できるが、実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	S	目標の達成状況が優れている 部局間学術交流協定校等からの研究生、特別研究学生または国際インターンシップ研修生等の積極的な受け入れにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 学生の海外派遣支援の実施、海外の大学とのダブルディグリープログラム協定の締結などにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加も見られ、高く評価できる。

部局名:工学研究科・工学部

区分	指標	評定	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>目標値には到達していないが、学部独自の英語教育の導入や留学生との交流行事も種々開催されており、英語力向上に向けた取組については、他部局も参考にすべき先導的な試みがみられる。</p>
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>目標値を下回っているが、独自の英語カリキュラムを多数実施しており、数値自体も比較的高い水準にある。</p>
研究	常勤教員の論文数	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>前年度実績を下回っているが、若手研究者への称号付与や研究に専念できる環境整備の取組を進め、今後の向上に期待する。</p>
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>獲得金額は目標値を下回っているものの、獲得件数は目標値を上回っている。フューチャーイノベーションセンターに、研究費獲得の知見をもつ退職教授を「研究コンシェルジュ」として迎え、若手研究者等への競争的資金獲得等のサポートを実施する体制を整備している点は評価でき、今後の成果に期待したい。</p>
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	SS	<p>目標の達成状況が非常に優れている</p> <p>新たな共同研究講座や協働研究所の設置をはじめ、設置後の継続的な活動サポート等、産学連携の取組を積極的に実施し、目標値を大きく上回っている。また、全学的に見ても高額な受入金額であり、高く評価できる。</p>
グローバル化	外国人留学生数	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>全学プログラム(OUSSEP、OUICP等)での留学生受け入れ、ダブル・ディグリー・プログラムや部局間交流協定、国際交流推進センターによる留学生の支援等の取組により、前年度からの増加が見られ、目標値をほぼ達成し、評価できる。</p>
	日本人海外派遣件数	SS	<p>目標の達成状況が非常に優れている</p> <p>国際交流推進センターなどが進める学部向け海外研修プログラムや大学院向け海外研修プログラム、日本人学生の英語力強化のための取組などにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からも大きく増加しており、非常に高く評価できる。</p>

部局名:基礎工学研究科・基礎工学部

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>目標値は下回っているが、学部独自の先導的な授業を取り入れており、他部局にも参考になる試みをされている。これらの取組は、単発的なものではなく、長年に渡る取組であり、今後の英語力の向上が期待される。</p>
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>全学的にも例年比較の高い水準を維持しながら、2年連続で割合が向上し、目標を達成できたことは評価できる。</p>
研究	常勤教員の論文数	A	<p>目標の達成状況が良好である</p>
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>獲得金額は目標値を下回っているが、獲得件数は目標値を上回っている。名誉教授によるレビューシステムを導入しており、今後の向上に期待したい。</p>
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	<p>目標の達成状況が良好である</p>
グローバル化	外国人留学生数	A	<p>目標の達成状況が良好である</p> <p>OUICP における基礎工学研究科のプログラム編成や R3 センターのプログラムへの協力により、渡日外国人留学生に加えて、オンラインでも受け入れる体制作りに取り組んだ結果、目標値は達成していないが、前年度から増加していることは評価できる。</p>
	日本人海外派遣件数	S	<p>目標の達成状況が優れている</p> <p>目標値を達成し、前年度からの増加も見られ、高く評価できる。</p>

部局名:国際公共政策研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	SS	目標の達成状況が非常に優れている 全学的に例年トップの水準を維持しており、さらに目標値を上回っていることは、非常に高く評価できる。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、論文数の向上を一層促すなど、今後の努力に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 獲得件数は目標値を達成しているものの、獲得金額は目標値を大幅に下回り、なおかつ減少傾向にある。申請しない場合に理由書を提出させる取組は評価でき、今後の成果に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	B	目標の達成状況が不十分である ・所属教員への受託研究獲得に向けた支援等、取組は評価できるが、実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回り、前年度からも減少している。外国人留学生比率が5割を超え、留学生の増加が難しいことは理解できるもの、入学者の質を高める方策を導入するなど、志願者数の増加が留学生の増加につながることを期待する。
	日本人海外派遣件数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回り、前年度からも減少している。新たな博士後期課程ダブルディグリープログラムを設置しており、今後の向上に期待する。

部局名:情報科学研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	SS	目標の達成状況が非常に優れている 目標値を大きく上回っており、比較的高い水準に達してきている。是非継続的に取組を強化してほしい。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を達成しており、なおかつ、研究力向上のための取組を充実させるなど、質の向上に対する実績が認められる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である 共同研究マッチング等、産学連携の取組を実施し、目標値及び前年度実績を上回っており、評価できる。
グローバル化	外国人留学生数	SS	目標の達成状況が非常に優れている 海外の大学への積極的な広報活動等を充実した結果、目標値を大きく上回るとともに、前年度からの増加が見られ、非常に高く評価できる。
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 国際会議での発表機会の増加、海外インターンシップ科目を設置し、渡航費用を助成する制度などにより、目標値を大きく上回るとともに、前年度からも増加しており、高く評価できる。

部局名:生命機能研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)	A	目標の達成状況が良好である 目標値を大きく下回っているが、全学的にも例年比較的高い水準を維持しながら、前年度からは上昇しているため、今後の向上に期待する。
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているが、FWCI が大きく上昇しており、質の向上に対する実績が認められる。
研究	常勤教員の論文数	A	目標の達成状況が良好である 獲得金額についても目標値をほぼ達成しており、獲得件数・金額を業績評価に組み込んでいる点は評価でき、今後の成果に期待したい。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額		目標の達成状況が良好である ZOOM 等を利用したオンラインでの入試の実施や積極的な広報活動等により、目標値をほぼ達成したことは評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を達成し、前年度からの増加も見られ、高く評価できる。
	日本人海外派遣件数		目標の達成状況が優れている

部局名:高等司法研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院) ※	B	目標の達成状況が不十分である
研究	常勤教員の論文数 ※	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、Scopus 抽出データを基準とする場合、法学分野で目標を達成することはきわめて困難である事情は理解できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 獲得件数・金額ともに目標値を下回っているものの、研究推進室において更なる対策を講じることにより、今後の獲得件数・金額の増加に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額 ※	B	目標の達成状況が不十分である ・共同研究・受託研究の獲得に向けた交渉等、取組は評価できるが、実績値に基づき判断した。 ・共同研究・受託研究の獲得に向けて、学内の支援体制を積極的に活用し、今後の向上に期待したい。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		

※令和6年度部局アクションプランより、次の3指標は、高等司法研究科の専門職大学院としてのミッションを鑑み、評価対象外とする。

- ・ 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合
- ・ 常勤教員の論文数
- ・ 共同研究・受託研究の受入金額

部局名:連合小児発達学研究科

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回っており、前年度からの割合向上も大きく、高く評価できる。
研究	常勤教員の論文数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、研究連絡会や報告会などを定期的に行い、研究計画の具体的な進捗を追跡するなどの取組を進めており、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数	S	目標の達成状況が優れている 海外展開のプログラムとリンクし、海外の連携機関との交流を推進したこと、博士後期課程の入学試験に優秀な外国人留学生枠を設けたこと等の結果、目標値を上回るとともに、前年度からの増加が見られ、高く評価できる。
	日本人海外派遣件数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を上回るとともに、数年ぶりに複数名の派遣学生を出したことは高く評価できる。

部局名:微生物病研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	S	目標の達成状況が優れている 目標を達成しており、質の向上に対する実績が認められる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である 獲得件数・金額ともに目標値を下回ったものの、速やかな新規教員の採用により教員数の増加が確認できる等、目標値の達成に向けた取組による実績が認められる点は評価でき、今後の成果に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		

部局名:産業科学研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	A	目標の達成状況が良好である 目標値を下回っているものの、ほぼ達成していると認められる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	S	目標の達成状況が優れている 戦略室による企業マッチング支援や学内組織との連携推進等、産学連携の取組を積極的に実施し、目標値を大きく上回っており、高く評価できる。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		

部局名:蛋白質研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、OU マスタープラン実現加速事業を推進させ、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 獲得件数・金額ともに目標値を下回っているものの、申請書ブラッシュアップ支援を実施し、特に若手教員の採択率の向上に取り組んでいる点は評価でき、今後に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である 学内組織及び外部機関との連携等、産学連携の取組を積極的に実施し、実績額の増加が顕著であり、高く評価できる。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		

部局名:社会経済研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	S	目標の達成状況が優れている 目標を達成しており、質の向上に対する実績が認められる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	SS	目標の達成状況が非常に優れている 目標値を大きく上回るとともに、前年度からの大幅な増加が見られ、非常に高く評価できる。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		

部局名:接合科学研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、部局独自の教員業績評価において、掲載論文数を評価指標の一つとして組み込み増加を促す取組は評価でき、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 獲得件数・金額ともに目標値を下回っているものの、接合科学共同利用・共同研究拠点として一般公募研究課題に加えて、本研究所の専任教員が代表者となり複数の研究者と連携して重点的に取り組む先導的重点課題を実施している点は評価でき、今後の成果に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である 部局主催のシンポジウム等の開催による研究シーズの発信等、産学連携の取組を実施しており、目標値及び前年度実績を上回っており、評価できる。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		

部局名:レーザー科学研究所

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	B	目標の達成状況が不十分である 目標値を下回っているが、5カ国の海外連携オフィスおよび国内連携機関を一元的に統括する取組を開始しており、今後の向上に期待する。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 獲得件数・金額ともに目標値を下回っているものの、附属マトリクス共創推進センターを通じて新たな領域の研究者との共同申請を促進している点、本部局の大型レーザー研究に学生が申請できる「学生 PI 制度」を開始し、次世代研究者の On-the-Job トレーニングの場を提供している点は評価でき、今後の成果に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	S	目標の達成状況が優れている 目標値及び前年度実績を大きく上回っており、高く評価できる。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		

部局名:核物理研究センター

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	S	目標の達成状況が優れている 目標を達成しており、質の向上に対する実績が認められる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	B	目標の達成状況が不十分である 獲得件数・金額ともに目標値を下回っているものの、JSTのKプログラム等の国家プロジェクトへの積極的な応募を推奨している点は評価でき、今後の成果に期待したい。
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		

部局名:サイバーメディアセンター

区分	指標	評価	検証コメント
教育	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(学部)		
	全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)		
研究	常勤教員の論文数	S	目標の達成状況が優れている 目標値を大きく上回る実績を上げており、高く評価できる。
	競争的資金(科研費等)の獲得件数・金額	A	目標の達成状況が良好である
産学共創	共同研究・受託研究の受入金額	A	目標の達成状況が良好である 各教員の産学連携の取組強化により、目標値及び前年度実績を上回っており、評価できる。
グローバル化	外国人留学生数		
	日本人海外派遣件数		